

プロジェクト名	音楽教育力の総合的な向上を目指す地域貢献の展開		
プロジェクト期間	平成 22 年度		
申請代表者 (所属講座等)	長野俊樹 (音楽教育講座)	共同研究者 (所属講座等)	木村次宏 (音楽教育講座) 原尚志 (音楽教育講座) 二宮毅 (音楽教育講座) 武内俊之 (音楽教育講座) 山本百合子 (音楽教育講座)
取組方法および 取組実績の概要	<p>本プロジェクトは、地域の小・中学校、児童・生徒を対象とし、大学の教員や学生等の人的資源を活用して、地域の音楽教育の充実と活性化を目指す活動を展開するとともに、その成果を踏まえ、学生の音楽教育力の向上を目指すことを目的とした。外部の学校教育現場においてこのような活動を行うことは、本音楽教育講座では近年あまり例のないことであるが、このプロジェクトを単年度で終わらせることなく、次年度以降も継続・発展させていくことを視野に入れ、本年度は出前演奏会と体験学習を含めた鑑賞授業それぞれ 1 件ずつを実施した。</p> <p>1) 平成 22 年 11 月 5 日 (金) 13 時 50 分～15 時、北九州市立曾根中学校体育館において、本学学生による声楽コンサート。参加者は同校生徒全員、教職員、保護者約 600 名。内容は、ピアノの連弾、日本、イタリア、ドイツの歌曲、オペラのアリアの演奏、ピアノとヴァイオリンの合奏である。</p> <p>2) 平成 22 年 12 月 6 日 (月) 14 時 15 分～15 時 50 分、宗像市立日の里東小学校音楽室・多目的室において、日本伝統音楽の生演奏鑑賞と体験授業。参加者は同校 6 年生 (2 学級) 61 名及び担任の教員。内容は、箏と尺八の演奏と実技の体験学習である。</p> <p>これには本講座の学生を選抜して計画段階から携わらせ、全体の企画、資料の作成、機材の運搬、会場のセッティング、授業や演奏会の実施等、あらゆる場面で実地経験を積ませた。参加した学生数は、前掲の声楽コンサートに 16 名 (生涯スポーツ芸術課程音楽)、体験授業に 5 名 (初等教育教員養成課程音楽選修と中等教育教員養成課程音楽専攻) である。</p>		
研究成果の概要	<p>実施した 2 件とも、それぞれの学校の生徒と教職員から良好な評価を得た。生演奏で音を聴いたり、直に楽器に触れたりしたことによる感動や驚きの言葉がつつられ、可能ならば毎年このような機会を得たいとの意見も見られた。大学がこうした企画を積極的に持ち込んで、教育現場に貢献してくれる機関なのだということに初めて知ったというような、現場の先生たちの反応もあったようである。その一方で、個々の学校では、予算面での特別な負担は難しいのが実情のようであり、我々としても、これを継続化するためには、経費の捻出を工夫していかなければならない。</p> <p>当然のことながら問題点も様々に見え、また指摘されてもいる。企画した学生が不慣れなため、送り手と受け手の意識の差や、生徒の能力のレベルに想いが至らなかった面があること、あるいは参加対象人数や実施場所に関して、受け入れ先の学校と十分な意思の疎通が図れなかったことも反省点である。感想とともに現場の要望をいくつか書いてくださっている学校もあった。生きた現場の意見は、このようにしてこちらが足を運び、企画を持ち込んで働きかけを行ってこそ、引き出すことができる。これを次年度の実施に生かしつつ、本学における学生教育の内容にも反映させていきたい。</p> <p>それぞれに携わった本学学生は、準備・運営・後片づけ等の段取り、授業や演奏会の進め方、対象学校での生徒たちの反応、実施の問題点などについて</p>		

<p>て、大学では接することのできない実体験を積むことができた。生涯スポーツ芸術課程音楽コースの学生たちは、日頃活発に外部での演奏活動を行っているが、たいていは音楽ホールなどであり、学校現場で生徒に触れる機会が少ないので、大きな刺激となったようだ。教員養成課程の学生たちは、現在音楽科教育において現場の先生たちがいちばん頭を悩ませている日本伝統音楽の教授法について、同行した日本伝統音楽の先生方の技術や方法から多くを学ぶことができた。しかし、今回は端緒の年度となったため、参加できた学生に限りがあった。このプロジェクトの本来の目的は、学生全体の教育力の向上にあるのであり、今後は参加をより多くの学生に広げ、本学における教育者養成の方法・内容の充実に役立てたい。</p> <p>今後の展望としては以下のような事項を主たる課題として挙げるができる。</p> <p>①本学学生の質的向上のための方策の一つとして、このプロジェクト内容のカリキュラム化を積極的に推進していくこと。</p> <p>②より広く様々な学校や教育委員会等にも働きかけ、活動のニーズを掘り起こしていくこと。</p> <p>③こうした地域貢献活動を研究活動の活性化に結びつけていくとともに、外部資金の獲得を視野に入れたプロジェクトへと育てていくこと。</p>			
外部資金獲得申請及び研究成果の公表方法について			
外部資金獲得申請（予定）	特別経費（概算要求）	研究成果の公表方法（予定）	未定